令和元年度化学物質環境実態調査結果の活用状況

令和3年12月14日 環境保健部環境安全課

令和元年度の化学物質環境実態調査の結果は、第26回化学物質評価専門委員会の評価を経て、令和2年度版の「化学物質と環境」として公表した。

令和元年度の初期環境調査及び詳細環境調査の結果概要と要望部署における調査結果の活用状況は、それぞれ別表1及び2のとおりである。

(別表1)令和元度初期環境調査の結果概要と要望部署における活用状況

初期	調査対象物質	媒体	検出 状況	検出 頻度 (地点)	検出範囲	検出 下限値	要望理由	要望部署における 調査結果の活用状況
[1]	アジスロマイシン	水質	検出	9/25	nd~130 ng/L	1. 7 ng/L	化管法 化管法の施行状況について検討を加えるに当たり、現在対象とされていないが水生生物への一定の有害性が認められる物質について、その環境残留状況を確認するため。	らなかったが、今後の 化管法の対象物質の見 直しを行う際の基礎資
[2]	アゾキシストロし							
	[2-1] メ チ ル =(E)-2-{2-[6-(2- シアノフェノキ シ)ピリミジン-4- イルオキシ]フェ ニル}-3-メトキシ ア ク リ ラ ー ト (別名:(E)-アゾ キシストロビン)		検出	14/28	nd∼100 ng/L		and Personal Care Products)	で、環境中の医薬品を含む PPCPs に関する調査事業にフィードバックし、更なる情報の収
	[2-2] メチル =(Z)-2-{2-[6-(2- シアノフェノキシ)ピリミジン-4- イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリラート (別名:(Z)-アゾキシストロビン)	水質	検出	4/28	nd~ 0.52 ng/L	0.39 ng/L		
[3]	<i>o</i> −アミノフェノー ル	水質	検出	24/25	nd~77 ng/L	2. 3 ng/L		質となった。リスク評価等に活用するとともに、今後の化管法の対
[4]	アモキシシリン	水質	検出	15/24	nd~2.3 ng/L	0.013 ng/L	化管法 化管法の施行状況について検討を加えるに当たり、現在対象とされていないが水生生物への一定の有害性が認められる物質について、その環境残留状況を確認するため。	らなかったが、今後の 化管法の対象物質の見 直しを行う際の基礎資

				14.11		1		
初期	調査対象物質	媒体	検出 状況	検出 頻度 (地点)	検出範囲	検出 下限値	要望理由	要望部署における 調査結果の活用状況
[5]	シアナミド	水質	検出	14/25	nd∼950 ng/L		いて検討を加えるに当たり、現在は第一種指定化学物質であるが※、近年に実態調査がなされていなかったため、環境果によっては指定の見直しを検討するため。 ※要望当時	質となった。リスク評価等に活用するとともに、今後の化管法の対象物質の見直しを行う際の基礎資料として活用する。
	1, 3-ジオキソラン			0/17	nd	86 ng/m³	当する可能性がある物質リストに選定され、近年の大気媒体での調査境境がないことから、環境境留実態の調査を優先的に行い、大気における実態を把握することが必要とされたため。	中で、今後重点的に情報収集や対策の検討を行うべき物質の優先順位付けに活用する。
	3-[[(ジメチルア ミノ)カルボニル] オキシ]-1-メチル ピ リ ジ ニ ウ ム (別名:ピリドス チグミン)		検出	19/26	nd~18 ng/L	0. 043 ng/L	Products) 環境中の医薬品等について環境リスク評価を検討する上で、暴露情報等が不足しているため。	集、生態毒性情報の確認と新たな取得等を行い、必要な場合は環境リスク初期評価の実施を要望することとしている。
[8]	(4-{[4-(ジメチル アミノ)フェニル) チリデン}シフェン チリデン}シー へキサ-2,5-ジー ン-1-イリン ンモニウム リド)(ジメチル) リド)(別名ー リド) も酸塩)			5/23	nd~ 0.96 ng/L	0. 028 ng/L	いて検討を加えるに当た り、現在は第二種指定化 学物質であるが※、近年 に実態調査がなされてい なかったため、環境果に よっては指定の見直 よっては指定の 検討するため。 ※要望当時	物質に入らなかった が、今後の化管法の対 象物質の見直しを行う 際の基礎資料として活 用する。
[9]	N, N-ジメチルビグ ア ニ ド 塩 酸 塩 (N, N-ジメチレビグ グアニドとし (別名:塩酸メトホ ルミンとして))	水質	検出	26/27	nd~ 3, 600 ng/L	0.17 ng/L	Products)	で、環境中の医薬品を含む PPCPs に関する調査事業にフィードバックし、更なる情報の収

1- 45	-m 116 41 55			検出	14.11.45	検出		要望部署における
初期	調査対象物質	媒体	状況	頻度 (地点)	検出範囲	下限値	要望理由	調査結果の活用状況
[10]	セリウム及びその 化合物 (セリウ ムとして)	水質	検出	25/25	4. 3~ 1, 200 ng/L	0.15 ng/L	化管法 化管法の施行状況について検討を加えるに当たり、現在対象とされていないが※一定の有害性が認められる物質について、その環境残留状況を確認するため。 ※要望当時	今般の化管法政令改正(令和3年10月20日公布)では第一種指定化学物質となった。リスクきに活用するとともに、今後の化管法の対象物質の見直しを行う際の基礎資料として活用する。
[11]	タリウム及びその 化合物 (タリウ	水質	検出	24/24		0.14	化管法	今般の化管法政令改 正(令和3年10月20
	たら初 (メリソ ムとして)	大気	検出	13/13	0. 0036 ~0. 43 ng/m ³	ng/L 0.00020 ng/m ³	いて検討を加えるに当たり、現在対象とされていないが※一定の有害性が認められる物質について、その環境残留状況を確認するため。	日公布) では第一種指 定化学物質となった。 リスク評価等に活用す
[10]	0 (1 0	l. ss	14.11	11 /00	1 44	0.00	※要望当時	として活用する。
[12]	2-(1, 3- チアゾー ル-4-イル)-1 <i>H</i> -ベ ンゾイミダゾール (別名: チアベン ダゾール)	水質	検出	11/26	nd~14 ng/L	0.69 ng/L	化管法 化管法の施行状況についた り、現在は第二種指定 学物質であるが※され 実態調査がなる環 に実態調査がなる環 がなたたい、 での見直 と 検討するため、 後計するため、 ※要望当時	物質に入らなかった が、今後の化管法の対 象物質の見直しを行う 際の基礎資料として活
[13]	チアムリン	水質	検出	6/27	nd~3.1 ng/L	0.013 ng/L	Products)	
[14]	<i>№</i> ニトロソジエチ ルアミン	大気	検出	25/25 19/19	0.037~ 1.6 ng/L nd~19 ng/m³	0. 026 ng/L 0. 058 ng/m ³	化管法 化管法の施行状況について検討を加えるに当たり、非意図的生成物質であるが、近年に実態調査がなされていなかったため、環境実態調査を行い、その結果によっては指定の見直しを検討するため。	今般の化管法政令改 正(令和3年10月20 日公布)では指定化学 物質に入らなかった が、今後の化管法の対 象物質の見直しを行う 際の基礎資料として活

		1	ı	14.11			Г	Γ
初期	調査対象物質	媒体	検出 状況	検出 頻度 (地点)	検出範囲	検出 下限値	要望理由	要望部署における 調査結果の活用状況
[15]	<i>N</i> −ニトロソジメチ ルアミン	水質	検出	26/26	0. 12 ~ 8. 1 ng/L	0. 024 ng/L	化管法 化管法の施行状況につ	今般の化管法政令改 正(令和3年10月20
		大気	検出	19/19	0. 087~ 2. 9	0.0075 ng/m³	いて検討を加えるに当たり、現在対象とされてい	日公布)では指定化学 物質に入らなかった
					${\sf ng/m^3}$	σ,	ないが一定の有害性が認められる物質について、	が、今後の化管法の対 象物質の見直しを行う
							その環境残留状況を確認	際の基礎資料として活
[16]	バルプロ酸	水質	検出	9/27	nd~24	3. 1 ng/L	するため。 PPCPs (Pharmaceuticals	用する。 検出値が得られたの
					ng/L		and Personal Care Products)	で、環境中の医薬品を 含む PPCPs に関する調
							環境中の医薬品等につ	査事業にフィードバッ
							いて環境リスク評価を検	
							討する上で、暴露情報等	
							が不足しているため。	認と新たな取得等を行い、必要な場合は環境
								リスク初期評価の実施
								を要望することとして
[1 7]	ピリジン	+=	₩山	10/10	ndE.1	2. 4	ル告け	いる。
[17]	ヒリシン	大気	検出	19/19	nd~54 ng/m³	2.4 ng/m³	化管法 化管法の施行状況につ	今般の化管法政令改 正(令和3年10月20
					116/	118/	いて検討を加えるに当た	日公布)では引き続き
							り、現在は第一種指定化	第一種指定化学象物質
							学物質であるが、近年に	
							実態調査がなされていなかったため、環境実態調	等に活用するととも に、今後の化管法の対
							査を行い、その結果によ	象物質の見直しを行う
							っては指定の見直しを検	際の基礎資料として活
[10]	1911 / 4 - 11	-la 55	テムル	0 /00		0.1/	討するため。	用する。
[18]	ピリメタニル	水頁	不検出	0/26	nd	2. 1 ng/L		要求した検出下限値のもとでは検出されな
							Products)	かったので、現時点で
								は環境リスク評価を実
							いて環境リスク評価を検	
							討する上で、暴露情報等 が不足しているため。	方んり れる。
[19]	3-ベンジリデンカ	水質	不検出	0/28	nd	23 ng/L	PPCPs (Pharmaceuticals	要求した検出下限値
	ンファー							のもとでは検出されな
							Products) 理接由の医薬日等につ	かったので、現時点で は環境リスク評価を実
							環境中の医薬品等にプロングでは いて環境リスク評価を検	
							討する上で、暴露情報等	
F							が不足しているため。	
[20]	ベンジル <i>-p</i> -ヒド ロキシベンゾエー	水質	検出	1/27	nd ∼ 0. 31	0. 29 ng/L	PPCPs (Pharmaceuticals and Personal Care	検出値が得られたの で、環境中の医薬品を
	ト (別名:ベン				ng/L	IIg/L	Products)	c、環境中の医薬品を 含む PPCPs に関する調
	ジルパラベン)						•	査事業にフィードバッ
							いて環境リスク評価を検	クし、更なる情報の収
							討する上で、暴露情報等	
							が不足しているため。	認と新たな取得等を行い、必要な場合は環境
								リスク初期評価の実施
								を要望することとして
								いる。

初期	調査対象物質	媒体	検出 状況	検出 頻度 (地点)	検出範囲	検出 下限値	要望理由	要望部署における 調査結果の活用状況
[21]		ポリ	フルオロ	酢酸類			環境リスク初期評価	環境リスク初期評価
	[21-1] モノフル	水質	不検出	0/28	nd	0. 76	化学物質の環境リスク初	に活用し、評価結果は
	オロ酢酸					ng/L	期評価を実施する上で、	第20次取りまとめで公
	[21-2] ジフルオ	水質	不検出	0/28	nd	0.32	ばく露情報等が不足して	表する予定である。
	口酢酸					ng/L	いるため。	
	[21-3] トリフル	水質	検出	28/28	47 ~ 420	8. 2 ng/L		
	オロ酢酸				ng/L			
[22]	レボフロキサシン	水質	検出	20/26	nd~540	0. 44	PPCPs (Pharmaceuticals	検出値が得られたの
					ng/L	ng/L		で、環境中の医薬品を
							Products)	含む PPCPs に関する調
								査事業にフィードバッ
							いて環境リスク評価を検	
								集、生態毒性情報の確
							が不足しているため。	認と新たな取得等を行
								い、必要な場合は環境
								リスク初期評価の実施
								を要望することとして
								いる。

(別表2)令和元年度詳細環境調査の結果概要と要望部署における活用状況

			₩ Ш	検出		النظ		西は如果におけて
詳細	調査対象物質	媒体	検出 状況	頻度 (地点)	検出範囲	検出 下限値	要望理由	要望部署における 調査結果の活用状況
[1]	イソシアヌル酸	水質	検出	16/30	nd~ 7, 800 ng/L	500 ng/L	化 ヌソムに 化計の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	のリスク評価に活用し
[2]	環状ポリジメチルシ	ノロキ	サン類				化審法	第一種特定化学物質
	[2-1] オクタメチ ルシクロテトラシ	生物	検出	9/11	nd~37	0.79 ng/g-wet		への指定の検討にあたり、現状地場として活
	ロキサン				iig/g wet	iig/g wet	ドデカメチルシクロへ	
	[2-2] デカメチル	生物	検出	11/11	nd~200	1. 3	キサシロキサンが監視	
	シクロペンタシロ キサン				ng/g-wet	ng/g-wet	化学物質に指定され第 一種特定化学物質への	
	<u> </u>	生物	検出	8/11	nd~4. 7	0. 78	指定を検討する必要が	
	ルシクロヘキサシ			-,		ng/g-wet		
	ロキサン						がないことから、環境残	
							留実態の調査を優先的 に行い、環境中における	
							実態を把握することが	
							必要とされたため。	
[3]	クラリスロマイシ							
	[3-1] クラリスロ	水質	検出	19/30		1. 4 ng/L	PPCPs (Pharmaceuticals and Personal Care	│ 検出値が得られたの 「で、環境中の医薬品を
	マイシン				ng/L		and Personal Care Products)	で、環境中の医薬品を 含む PPCPs に関する調
								査事業にフィードバッ
							調査を実施し、その結果	クし、更なる情報の収
							を用いた環境リスク初	
							期評価 (第 16 次とりま とめ) において詳細なり	
							スク評価を行う候補と	
							され、代謝物を含めた環	
							境中における実態を把	いる。
							握することが必要とさ	
	[3-2] 14-(<i>R</i>)- L	水質	検出	26/30	nd~230	0. 62	れたため。	
	ドロキシクラリス	小只	лхш	20,00	ng/L	ng/L		
	ロマイシン				=-	=-		

詳細	調査対象物質	媒体	検出 状況		検出範囲	検出 下限値	要望理由	要望部署における調査結果の活用状況
[4]	2, 6-ジ- <i>tert</i> -ブチ ル-4-メチルフェ	水質	検出	(地点) 3/29	nd~100 ng/L	35 ng/L		第二種特定化学物質への指定の検討にあた
	ノール (別名: BHT)	底質	検出	29/29	0. 33	0.070 ng/g-dry	指定され、2014年度に詳細環境調査を実施し、そ	り、優先評価化学物質
	,		14.11	0 /40	ng/g-dry		の結果を用いた第二種	
		生物	検出	9/12	nd~6.5 ng/g-wet		特定化学物質への指定 に関する検討において、	
							更なる環境中における 実態を把握することが	
[5]	<i>N</i> -[3-(ジメチルア	水質	検出	30/32	nd~320	1. 6 ng/L	必要とされたため。 化審法	第二種特定化学物質
[0]	ミノ)プロピル]ス		-		ng/L		優先評価化学物質に	への指定の検討にあた
	テアルアミド	底質	検出	15/28	nd~220 ng/g-dry	6.1 ng/g-dry	指定され第二種特定化 学物質への指定を検討	
							する必要があるが、近年 の調査実績がないこと	ているところ。
							から、環境残留実態の調 査を優先的に行い、環境	
							中における実態を把握	
							することが必要とされ たため。	
[6]	N, N-ジメチルアルカ						化審法	第二種特定化学物質
	[6-1] <i>N, N</i> -ジメチ ルデシル-1-アミ	水質	検出	8/30	nd~370 ng/L	3. 0 ng/L	優先評価化学物質に 指定され第二種特定化	への指定の検討にあた り、優先評価化学物質
	ン=N-オキシド				IIg/ L		学物質への指定を検討	
	[6-2] N, N-ジメチ	水質	検出	19/30		7. 6 ng/L	する必要があるが、近年	
	ルドデシル-1-ア ミン= <i>N</i> -オキシド				ng/L		の調査実績がないこと から、環境残留実態の調	
	[6-3] N, N-ジメチ	水質	検出	10/30	nd~72	6. 2 ng/L	査を優先的に行い、環境 中における実態を把握	
	ルテトラデシル -1-アミン= <i>N</i> -オキ				ng/L		することが必要とされ	
	シド	-L 555	て松川	0 /20		0.0/	たため。	
	[6-4] <i>N, N</i> -ジメチ ルオクタデシル	水頁	不検出	0/30	nd	2. 8 ng/L		
	-1-アミン= <i>N</i> -オキ シド							
[7]	ビス(N,N-ジメチル	ジチォ	L トカルバ	L ミン酸)	<u> </u>	L ·レンビ	 化審法	第二種特定化学物質
	ス(チオカルバモイ						優先評価化学物質に	への指定の検討にあた
	ト) [7-1] <i>N</i> , <i>N</i> ′-エチ	水質	検出	2/22	nd ~ 3. 0	0. 76	指定され第二種特定化 学物質への指定を検討	
	レンビス(ジチオ			_, 	ng/L	ng/L	する必要があるが、近年	
	カルバミン酸) [7-2] <i>N, N</i> -ジメチ	水質	検出	15/22	nd~820	6. 6 ng/L	の調査実績がないこと から、環境残留実態の調	
	ルジチオカルバミ		12.7	, 	ng/L		査を優先的に行い、環境	
	ン酸						中における実態を把握 することが必要とされ	
							たため。	